

農業技術

「アイマサリ」はジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、早期肥大性や多収性に加え、食味も優れていることから、県内バレイシヨ産地では品種転換が進んでいます。しかし、「アイマサリ」は他品種と比べて塊茎が大玉になりやすく、種芋生産では種芋規格（塊茎1個190g~41g）に收まりにくいため、種芋規格内收量の確保が課題となっていました。

そこで、塊茎の小玉化と芋数の増加が期待されるジベレン処理が「アイマサリ」の種芋栽培に及ぼす効果を検討しました。春作早掘りマルチ

1個の重さは軽くなります。
一方で、1株当たりの芋数と
規格内収量は増加します。
本試験で「アイマサリ」で
はジベレリン処理による出

(県農林技術開発センター
畑作當農研究部門中山間當農
研究室主任研究員 松田元太)

「アイマサリ」の種芋栽培 ジベレリン浸漬処理 規格内収量増に有効

栽培において、植え付け2週間程度前の種芋をジベレリン液剤10 ppmに30秒間浸漬処理したところ、処理を行わなかった場合と比較して、塊茎

アイマサリへのジベレリン処理の有無による種イモ規格内収量への影響

ジベレリン 処理	平均 一個重 (グラム)	イモ数 (個)	収量 (キロ/アール)	規格内収量 (キロ/アール)
有	107	5.1	363	319
無	123	3.7	353	237

※各規格は2L以上：～191グラム、L：190グラム～121グラム、M・S：120グラム

～41グラム、種イモ規格はL～Sの190～41グラム

※収量は2023年、24年春作の平均値